

ピアホームだより

2018. 8. 10

激動のピアホームⅡ

支援の難しかったHさんを、奇跡的に？地域に繋げ一段落、思った以上に順調に新しい生活を始めていてほっとしています。

それもつかの間、Nさんが調子を崩し入院になってしまいました。当NPO法人に来て約6年、強い強迫症状を持っていて難しい方ではありましたが、まじめに休まずリトルハウスへ通所、今日までやって来ていただけに残念な思いがしています。ただ、早めの対応で本人にはダメージもなく、休息入院に近い形となったことは、不幸中の幸いでした。

作業所活動、ホーム生活も長くなり、自分の目指す就労が中々目標とならず、薬を服用しては就労できないとの思いに繋がってしまい、どうやら抗精神病薬を拒薬にしていたようです。

本人の思いと現実のギャップ—障害受容が十分でないような人をどう納得させながら、次を

切り拓いていくか？根源的な問題で、中々解決の糸口すらつかみきれない現状です。

また、Iさんが窃盗で捕まってしまいました。社会適応が若干苦手で、5、6年前に両親ともに失ってから気持ちも切れてしまっていたようです。それまでは料理人をしていて、手際の良い包丁さばきをみせていましたが、ホームでもTVを見るばかりで社会に戻る意欲が失われていました。

クレプトマニアー病院での診断にはこのことが記されていました。どこかで、歯車が狂ってからこんな症状になってしまったのでしょうか？何とか取り戻すべく、独立型社会福祉事務所に依頼し、更生計画を立てて頂き、担当弁護士と調整をもらっています。8月1日公判、私が証言台に立つことになりそうです。

先日のNHKクローズアップ現代でクレプトマニアのことが取り上げられていましたが、犯罪は犯罪との大前提があるためか、中々社会の共感を得るのは難しそうですね…

と言うことで、ピアホームⅡは一気に利用者一人と言う状態になりました。7月末には、ピアホームⅠからUさんが移行します。出来るだけ早く解決を得て、元のピアホームⅡの活動に戻

りたいものです。

映画「万引き家族」を鑑賞

そんな中、是枝監督のカンヌ国際映画祭でパルム・ドールを獲得した「万引き家族」を鑑賞しました。

我がホームで引き受けた皆さんの現状は、まさに同じような世相を反映？いやこれ以上の矛盾を抱え込んでいるかもしれません。半数以上の利用者は、幼いころに家族が離婚などで破綻しています。そこで非行に走ってしまった方もあり、その後の生活が大変で、十分な学力をつけることが出来ず、社会の底辺で仕事に就く、中々定着できず挙句の果て生活費に困り、窃盗を繰り返して来た…。

人間には、その人が暮らしていける安心空間が必要です。これまでどこからも提供してもらえなかったのでしょうか。結果、精神的混乱を起こし（精神病と診断され）、それが、むしろ幸いして医療と言う高度なサービスに繋がったことで回復の道筋を見つけた—と言うことでしょうか？

映画を見ながら、それ以上に厳しい現実を感じていました。

今月の予定

<8月8日>ケア会議(国立精神神経医療研究

センター)